

別添6-5 (第3の2関係)

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書 (令和4年度)

都道府県名 兵庫県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導 農業者数 18経営体	23	128%	A	290,112	290,112	
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証等 の取得経営体数 1経営体	0	0%	D	0	0	
<p>事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産GAPの普及を図るため、畜産GAPに関心を持つ養鶏17農場、肉用牛6農場、計23農場に対して認証取得に向けた現地指導を行った。</li> <li>令和4年度中に個別認証を取得予定であった県北部のブロイラー農場は、担当者の病気療養により推進活動が中断してしまった。</li> <li>県南西部の採卵鶏4農場は、将来、団体認証を目指す意向を示し、その足がかりとして先導役となる1農場が令和5年度中の個別認証を取得すべく具体的な準備活動に入った。</li> </ul>							
<p>都道府県による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県北部のブロイラー部門の重点地域では、研修会の開催や個別指導により畜産GAP取得に対する意識の向上を図ることができ、パイロット的農場の年度内取得に向け積極的な活動を行っていたが、取得に向けての陣頭指揮を執っていた担当者の病気療養により推進活動が中断してしまった。今後、推進活動の再開に向けた体制構築を指導する予定である。</li> <li>県南西部のレイヤー部門の重点地域では、2回の研修会や個別の面談により地域内採卵鶏農場間の調整を図り、団体認証に向けた具体的な推進方針を作ることができた。まずは令和5年度中のパイロット的農場の個別認証に向けた取り組みを本格化することができた。</li> </ul>							
<p>国による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「I 日本版畜産GAP指導活動の推進」について、新規で3名のJGAP指導員の育成により、指導員は22名(令和4年度末現在)となり、県内の畜産GAP指導体制の強化が図られた。また目標18農場に対し23農場に現地指導が行われ、目標を達成した。</li> <li>「II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大」について、新たな畜産GAP認証取得経営体として肉用鶏1農場を目標としていたが、当農場担当者の病気療養の他、令和4年11月には兵庫県内において高病原性鳥インフルエンザが発生し、当農場の防疫対策の強化により人の出入制限等を行わざるを得なかったこともあったため、年度中の認証取得ができず実績は0であった。このため、令和5年度に目標が達成されるよう、改善計画書を提出させ、改善計画の実施状況及び目標の達成状況を確認していく。</li> </ul>							